

(評価資料3)

<p>研 究 課 題</p>	<p>3</p>	<p>有機フッ素化合物の環境動態及び生物蓄積に関する研究 (29-31)</p>
<p>研究目的・背景</p>	<p>全世界の自然環境中に拡散している有機フッ素化合物の環境動態及び生物蓄積を、当センターが開発した分析法を用いて国内外において同様の研究を行っている研究機関と共同で解明することを目指すもの。</p>	
<p>研究計画の概要</p>	<p>平成29年度：メダカ等のサンプリングと分析・解析、パッシブサンプラーの適用についての検討、下水処理場からのサンプリングと分析 平成30年度：メダカ等のサンプリングと分析・解析、パッシブサンプラーによる環境水のサンプリング、下水処理場の追加調査とデータ取りまとめ解析 平成31年度：メダカ等のサンプリングと分析・解析、パッシブサンプラーによる環境水のサンプリング、パッシブサンプラーのデータ取りまとめ及び解析、取りまとめたデータの学会発表等</p>	
<p>評 価 結 果</p>	<p>○総合評価 A (3人)・B (3人)・C (0人) ○総合意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外との共同研究によるデータを県内だけでなく他地域との比較も行うことができ、国内外にとって重要なデータを取得できること、また岩手県の環境保全、生態系の保全につながる可能性を秘めていることから重要性の高い研究であると評価できる。 ・有する分析技術をもとに各所からの依頼を受け長年取り組んだ課題と思われる。経年変化と蓄積状況の解明に向け、新しい手法もとりにいれていくことは評価できるが、岩手の河川状況への提言など成果の還元があると良いと思われる。 ・これまでの実績があり、引き続き継続して研究を推進する意義があると認める。 ・緊急性は低いが環境中の難分解性物質の継続モニタリングを行うことは重要な研究である。その意味を伝えることは難しいが、県民へのPRをお願いしたい。 ・有機フッ素化合物の環境動態及び生物蓄積の研究は緊急・重要性があり、総合評価はA評価である。 ・長年にわたる継続的な研究であるため（パッシブサンプラーなど新しい計測手法が図られてはいるものの）新規性を見出し難い。手持ちの経年変化データから見られる特徴と傾向を、他機関との協働で整理し、社会的にアピールしてもよいのではないか。 	
<p>センターの対応方針</p>	<p>Ⅰ 研究計画のとおり実施 Ⅱ 一部見直しの上実施 Ⅲ 今後検討 Ⅳ 実施しない</p> <p>これまで蓄積してきたモニタリングのデータをさらに充実させるとともに、新たな計測手法も取り入れながら、有機フッ素化合物の環境実態を明らかにしていきたい。 引き続き、国内外の研究機関と連携して研究を進めて行くとともに、研究成果を広くPRしていきたい。</p>	